

森基金 フィールド調査報告書

政策・メディア研究科 修士2年

81225367 小澤奈津子

調査内容

- アフリカにおける廃棄放置自動車のリサイクル事業を通じた官民連携BOP環境ビジネスについての研究にて、対象となる日本企業を訪問し、インタビューを実施した。
- 日程
 - ①企業1（金沢）2013年7月13日-17日
 - ②企業2（北九州）2013年8月19日-21日

企業1：インドネシア スラバヤ市における リサイクル型廃棄物中間処理施設パイロット事業

雇用の貢献度

・中間処理施設を建設しwaste pickerを雇用。

9:00-5:00 30名（平均年齢31-2歳）

・給与自社負担

(5,000-8,000円→12,000円-15,000円)

・制服供与(インフォーマルセクターから
フォーマルセクターへの印)

問題:現時点では分別作業にて有価物があれば、持ち出し売ってよい契約であり、基本給+ α でようやく生活成立。教育を受けていない貧困層であり、教育が容易ではない。

環境保全への貢献度

・人口300万人(昼間は500万人)

ゴミの量:1,000t-1200t/日

・中間処理施設で分別することにより、
最終処理施設に行くまでのゴミを2割減。

・初年度の2013年は15t/日のゴミを減らすことにより、メタンガスの排出制限(2150t-CO2/年)、及び運搬車両の燃料削減(30t-CO2/年)でき、計2,180t-CO2/年のCO2を減らす。

ビジネス成立度

・採算は取れていない。

・プラスチックの回収率が日本では考えられない水準であり、商機あり。

・市長が協力的である。北九州市とスラバヤ市は環境友好都市であり、以前日本で研修を受けた経験あり。

問題

・ODAと連携しても足りない。

F/S調査費4,700万円のうち
1,000万円はコンサル会社へ。

・分別後の有価物の買い取り
価格が低い。

・他に非衛生で作業効率が悪い
中間処理施設に対し、市は20年
契約しており支払いを続けている
ため、新規の中間処理施設に対し
て支払う資がない。

企業2：ナイジェリアBOP層が参画する環境配慮型自動車リサイクルバリューチェーンの構築事業

雇用の貢献度

- ・放置されている40万台/年の廃棄自動車のリサイクルするための
 - 合弁会社設立
 - 工場建設予定
- ・自動車リサイクルに関する法律を策定、及び危険物質及び汚染管理に関する法律を整備するための委員会設立。(環境省、貿易産業投資省、自動車工業会、法務局etc.)



Scavengers ,Dismantlers (informal)
を自動車リサイクル事業で
雇用予定

環境保全への貢献度

- ・解体センターで知識なく廃棄自動車を解体すると、エアバック、バッテリー等危険物質が発生し、環境に悪くフォーマルセクターとして対処すべきであると認識した。

ビジネス成立度

- ・研修員受け入れ事業による収入

問題

- ・工場の設立遅延(資金の問題)
- ・リサイクル後の鉄スクラップの行方。(鉄の需要は10万トン/年であり、scavengerと鉄工場の連携で供給)

Typical informal ELV dismantling centre Nigeria

